

環境経営論 2005年度個別感想集

平成17年8月3日 PM
東京外国語大学 担当講師 小野木正人

1. 一番印象的だったこと

- 20:80の法則。日常においてもそういうことが多そうだと納得した。(2)
- 環境実施計画表で、実務的な行動計画を立てたこと。(4)
- ISOよりも費用面等で負担の少ないエコアクション21というものが存在すること。(2)
- ISO取得は、思っていた以上に費用、時間、労力がかかり、面倒なものだということ。
- EMSシステムに実際に触れられて、とても勉強になった。
- 環境実施計画表。実行計画から運用に移行する流れは、他にも活用できそう。
- ほとんどの県でISO14001を取得済みだということ。また、それを県民が知らないことにも驚いた。

2. 得たもの、気づき

- 20:80の法則。20の側についてゆける精神力を身につけたい。(3)
- 環境実施計画表の作業で、5W1H(6W2H)を記載すると非常に見やすくなること。この考え方は、他でも応用がきくと思う。(2)
- ISOという困難を踏み台にして先へ進むとすること。自己宣言もその一部だと思う。
- 環境目標を実現するには、現状調査、情報収集等の下準備が大変だということ。また、効果が大きく、短期間で実施できることも少なくないということ。
- ISOは面倒だが、コンサルタントは面白そう。
- 計画を立てた後の、社員教育や自覚が最も難しく、かつ要になると思う。
- ISOの取得や維持に多額の費用がかかることに驚いたが、計画票をまとめるだけでも苦労したので、納得した部分もある。
- バーチャルウォーターの話。水資源の大切さを実感した。(4)

3. その他の感想

- 5W1H(6W2H)にWhomが入るのに納得した。(3)How muchが入るのは、さすが経営論という感じがした。
- 4.4.2 教育訓練・自覚 における困難。昨年の外語祭でも、マネジメントに際しては、全員の理解が本当に重要だった。
- 各々の課題をがむしゃらにやっていくうちに、ISO取得のための基礎的な知識が身についたように思う。
- 自宅でもISOを取り入れたら、光熱費等が減って他に使えるお金が増えると思った。
- 目標に向かってしなければならないことをアウトプットしてゆくことが大切だ。(2)
- 環境省は、もっと情報を公開して、人々に環境意識を広めるべきだ。